

第1学年

令和2年度

シラバス

赤門鍼灸柔整専門学校

柔道整復医療科

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	市川 博之	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	解剖学 I	曜日・時間	月曜日 10:50～

【授業概要・目標】	
1.人体における中枢及び末梢神経や感覚器の位置や構造、及び一部の神経障害による疾患について解説する。それらと機能との関わりについても理解できることを目標とする。	
2.人体の脈管系(血液、心臓、動脈、静脈、リンパ)の位置や構造について解説し、それらを理解できることを目標とする。	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	神経学総論 1
2	神経学総論 2
3	延髄の構造と機能
4	橋の構造と機能 1
5	中脳の構造と機能
6	間脳の構造と機能
7	大脳の構造と機能 1
8	大脳の構造と機能 2
9	脳室・脳脊髄液・脈管系
10	脊髄の構造と機能 1
11	脊髄の構造と機能 2
12	脳神経 1
13	脳神経 2
14	脳神経 3
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	脊髄神経 1
2	脊髄神経 2
3	脊髄神経 3
4	自律神経
5	感覚器 1 (皮膚・視覚器)
6	感覚器 2 (平衡聴覚器)
7	血液学総論
8	脈管学総論
9	心臓 1
10	心臓 2
11	動脈系 1
12	動脈系 2
13	静脈系
14	リンパ系
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験により評価する。
授業の進め方	主に板書と教科書の図を用いて行う。適宜スライドを用いることもある。
注意 (学生に望むこと)	予習は必要ないが、授業中に理解できるように集中して聞いてほしい。また解剖学用語は複雑で、多岐にわたる。復習が望ましい。
テキスト・参考書	指定された教科書を用いる。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	小原 賢 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	柔道整復基礎理論Ⅲ	曜日・時間	前期) 月曜日 13:10～ 後期) 水曜日 9:10～

【授業概要・目標】

柔道整復術・学における基礎的な治療方法(指導管理を含む)を学習する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	Ⅱ-6. 治療法 整復法 (徒手整復施行時の配慮)
2	Ⅱ-6. 骨折の整復法
3	Ⅱ-6. 骨折の整復法
4	Ⅱ-6. 脱臼の整復法
5	Ⅱ-6. 徒手整復後の確認と配慮
6	Ⅱ-6. 骨折、脱臼の整復法
7	Ⅱ-6. 軟部組織損傷の初期処置
8	Ⅱ-6. 固定法 固定施行時の配慮、 固定後の配慮
9	Ⅱ-6. 後療法 (用量、患者の準備、手技療法)
10	Ⅱ-6. 後療法(手技療法)
11	Ⅱ-6. 後療法(手技療法)
12	Ⅱ-6. 後療法(運動療法)
13	Ⅱ-6. 後療法(運動療法)
14	Ⅱ-6. 後療法(運動療法)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	前期評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期授業内容復習(小テスト、補習)
2	Ⅱ-6. 後療法(物理療法)
3	Ⅱ-6. 後療法(物理療法)
4	Ⅱ-6. 後療法(物理療法)
5	Ⅱ-6. 後療法(物理療法)
6	Ⅱ-6. 後療法(物理療法)
7	Ⅱ-6. 指導管理 (患者とその環境の把握)
8	Ⅱ-6. 指導管理 (患者の環境に対する指導管理)
9	Ⅱ-6. 指導管理 (自己管理に対する指導)
10	Ⅱ-7. 外傷予防 第一段階 (運動機能向上と教育活動)
11	Ⅱ-7. 外傷予防 第一段階 (特異的予防)
12	Ⅱ-7. 外傷予防 第二段階 (早期発見、早期治療)第三段階
13	Ⅱ-7. 後期授業内容復習
14	Ⅱ-7. 後期授業内容復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	後期評価点検

評価方法	筆記試験、授業態度などの総合評価
授業の進め方	前回授業の復習をしながら、各回授業に繋げる。
注意 (学生に望むこと)	基礎のため、単語の意味を知ること重点を置く。
テキスト・参考書	柔道整復学理論編・実技編、包帯固定学

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	石垣 寛高 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	柔道整復基礎理論Ⅱ	曜日・時間	前期) 月曜日 14:50～ 後期) 水曜日 14:50～

【授業概要・目標】 柔道整復師に必要な知識の習得

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	人体の構造-1
3	人体の構造-2
4	診察-1
5	診察-2
6	筋肉の損傷-1
7	筋肉の損傷-2
8	腱の損傷
9	神経損傷-1
10	神経損傷-2
11	頭部顔面部の損傷-1
12	頭部顔面部の損傷-2
13	頭部顔面部の損傷-3
14	復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	顎関節脱臼-1
2	顎関節脱臼-2
3	頭部・顔面部の軟部組織損傷
4	顎関節症
5	胸・背部の損傷-1
6	胸・背部の損傷-2
7	頸部の損傷-1
8	頸部の損傷-2
9	腰部の損傷-1
10	腰部の損傷-2
11	腰部の損傷-3
12	復習
13	復習
14	復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

評価方法	小テスト、課題、授業態度、筆記試験
授業の進め方	座学を中心に実技も行う
注意 (学生に望むこと)	予習復習をしっかりとすること。
テキスト・参考書	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	高橋 務	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	柔道整復基礎理論 I	曜日・時間	火曜日 10:50～

【授業概要・目標】 柔道整復術・学の歴史と基礎理論、基本包帯法を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション I. 概説(沿革と倫理綱領)
2	II-1. 人体に加わる力
3	II-2. 損傷時に加わる力
4	II-3. 痛みの基礎
5	II-4-1. 骨の損傷 (骨の損傷、骨の形態と機能)
6	II-4-1. 骨の損傷 (骨損傷の概説～)
7	II-4-1. 骨の損傷 (骨折の分類～)
8	II-4-1. 骨の損傷 (骨折の分類～)
9	II-4-1. 骨の損傷 (骨折の症状)
10	II-4-1. 骨の損傷 (骨折の症状)
11	II-4-1. 骨の損傷 (骨折の合併症)
12	II-4-1. 骨の損傷 (骨折の合併症)
13	II-4-1. 骨の損傷 (骨折の合併症)
14	前期復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	II-4-1. 骨の損傷 (小児骨折、高齢者骨折)
2	II-4-1. 骨の損傷 (骨折の癒合日数)
3	II-4-1. 骨の損傷 (骨折の治癒経過～)
4	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (関節の構造と機能)
5	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (関節の構造と機能)
6	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (関節損傷の概説)
7	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (関節損傷の分類～)
8	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (関節構成組織損傷)
9	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (関節構成組織損傷)
10	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (関節構成組織損傷)
11	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (脱臼)
12	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (脱臼)
13	II-4-2. 関節の損傷(捻挫、脱臼) (脱臼)
14	後期復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験、出席(授業態度含む)などの総合評価
授業の進め方	前回授業の復習をしながら、各回授業に繋げる。
注意 (学生に望むこと)	基礎のため、単語の意味を知る事に重点を置く。
テキスト・参考書	「柔道整復学・理論編」「包帯固定学」(南江堂)

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	小原 賢 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	解剖学Ⅱ	曜日・時間	火曜日 13:10～

【授業概要・目標】
 人体の運動器系(骨・筋・関節)の構造について学習する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション、授業の進め方
2	A. 骨格系 総論 (骨の役割、分類、構造)
3	A. 骨格系 総論 (骨の発生と成長、形状の用語)
4	A. 骨格系 各論(脊柱)
5	A. 骨格系 各論(脊柱、胸郭)
6	A. 骨格系 各論(胸郭、上肢帯)
7	A. 骨格系 各論(上肢骨)
8	A. 骨格系 各論(上肢骨、下肢帯)
9	A. 骨格系 各論(下肢帯、下肢骨)
10	A. 骨格系 各論(下肢骨)
11	A. 骨格系 総論(骨の連結)
12	A. 骨格系 各論(骨の連結)
13	A. 骨格系 各論(上肢の連結)
14	A. 骨格系 各論(下肢の連結)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	前期評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期授業内容復習(小テスト、補習)
2	B. 筋系 骨格筋 (筋の形態と起始、停止、作用)
3	B. 筋系 骨格筋 (筋の補助装置、神経)
4	B. 筋系(頭部の筋)
5	B. 筋系(頸部の筋)
6	B. 筋系(胸部の筋)、呼吸運動
7	B. 筋系(腹部の筋)、呼吸運動
8	B. 筋系(背部の筋)、呼吸運動
9	B. 筋系(上肢の筋)
10	B. 筋系(上肢の筋)
11	B. 筋系(下肢の筋)
12	B. 筋系(下肢の筋)
13	体表解剖
14	体表解剖
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	後期評価点検

評価方法	実技試験、授業態度、出席日数などで総合評価します。
授業の進め方	前回授業の復習をしながら基礎を中心に各回授業に繋げる。
注意 (学生に望むこと)	基礎のため、単語の意味を知ること重点を置く。
テキスト・参考書	解剖学の教科書、その他随時資料配布

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	一ノ渡 雄貴	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	英語	曜日・時間	火曜日 14:50～

【授業概要・目標】 辞書を使いながら英語を理解する力を養う。 文章を読み進めながら必須文法も同時に復習する。 文法事項の確認には演習問題も行う。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	授業説明
2	Unit1: be動詞
3	Unit2: 命令文
4	Unit3: 現在時制
5	Unit4: 過去時制
6	Unit5: 進行形
7	Unit6: 疑問文
8	Unit7: 名詞
9	Unit8: 代名詞
10	Unit9: 未来表現
11	Unit10: 助動詞
12	Unit11: 形容詞
13	Unit12: 副詞
14	まとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	Unit13: 前置詞①
2	Unit14: 前置詞②
3	Unit15: 不定詞、動名詞
4	Unit16: 現在完了
5	Unit17: 不定詞構文
6	Unit18: 句動詞、イディオム
7	Unit19: 受動態
8	Unit20: 文型
9	Unit21: 比較
10	Unit22: 接続詞①
11	Unit23: 接続詞②
12	Unit24: 関係詞①
13	Unit24: 関係詞②
14	まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験70%、授業への参加度・積極性30%
授業の進め方	高校までに学習する文法事項を復習し、比較的短めの文章で文法事項も含め英文全体を確認する。
注意 (学生に望むこと)	英和・和英辞書必須(媒体は問わない)。全訳や問題の解答などは配布しないのでしっかり書き取ること。該当範囲の単語・表現を事前に調べてくること。基礎から英語を学ぶ最後の機会と思われるため、積極的に参加すること。
テキスト・参考書	“Reading Steps” Robert Hickling・臼倉美里

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	金田一 孝二	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	解剖学Ⅲ	曜日・時間	水曜日 10:50～

【授業概要・目標】 正常な人体の形態と構造を理解する。特に、細胞と組織、内臓系について学習する。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	解剖学概説： 解剖学の意義・分類・用語
2	細胞-組織-器官-系についての概説
3	細胞1 形態と内部構造 核、DNA 細胞小器官
4	細胞2 細胞周期と細胞分裂
5	細胞3 上皮組織1
6	細胞4 上皮組織2
7	細胞5 支持組織1
8	細胞6 支持組織2
9	細胞7 骨組織総論
10	細胞8 筋組織総論
11	細胞9 神経組織総論
12	受精と発生1
13	受精と発生2
14	人体の区分
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	内臓系 総論
2	消化器系1 口唇・口腔・舌
3	消化器系2 歯・唾液腺
4	消化器系3 咽頭・食道・胃
5	消化器系4 小腸・大腸・肛門
6	消化器系5 肝臓・膵臓・胆嚢
7	呼吸器系 鼻腔・咽頭・喉頭・ 気管・気管支・肺
8	泌尿器系 腎臓・尿管・膀胱・尿道
9	生殖器系1 男性生殖器
10	生殖器系2 女性生殖器
11	内分泌系
12	体表解剖1 体表区分 骨格系概説
13	体表解剖2 筋系・脈管系概説
14	生体計測・映像解剖
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験、出席状況、授業態度、小試験、課題提出の総合評価とする。
授業の進め方	教科書中心の講義ではあるが、教科書に記載のない事項まで言及する。
注意 (学生に望むこと)	高校程度の生物学の知識は必要である。解剖学は決して暗記科目ではなく、理解することが大事である。予習復習を確実にし、授業に参加すること。課題の提出期限は厳守すること。
テキスト・参考書	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版)、その他、随時紹介する。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	石垣 寛高	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	手技療法 I (前期)	曜日・時間	前期) 水曜日 13:10～

【授業概要・目標】 柔道整復師に必要な基本的な手技療法を理解する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	手技療法-01
4	手技療法-02
5	手技療法-03
6	手技療法-04
7	手技療法-05
8	手技療法-06
9	手技療法-07
10	手技療法-08
11	手技療法-09
12	手技療法-10
13	実技試験
14	実技試験
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	/
2	/
3	/
4	/
5	/
6	/
7	/
8	/
9	/
10	/
11	/
12	/
13	/
14	/
15	/

評価方法	実技試験、出席、授業態度、課題提出、筆記試験の総合で判定する。
授業の進め方	実技、内容の確認
注意 (学生に望むこと)	毎回内容の予習と復習をしっかりとすること。
テキスト・参考書	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	原田 淳	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	手技療法 I (後期)	曜日・時間	後期) 水曜日 13:10～

【授業概要・目標】 卒後に実施される実際の臨床実習がより有意義なものとなるよう臨床現場に必要な基本的知識・技術を学習すること。 1. 柔道整復師に必要な基礎の固定法を修得する。 2. 臨床現場で軟部組織損傷の治療に際し行う固定時の技術力をつける。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1		1	授業の説明 ディカッション
2		2	固定法の基礎・包帯固定
3		3	包帯固定
4		4	テーピング
5		5	副木作成
6		6	金属副子作成
7		7	石膏ギプス作成
8		8	キャスト材作成
9		9	3Dプリンター固定材料作成その他
10		10	石膏ギプス作成
11		11	キャスト材作成
12		12	ROM改善運動療法
13		13	筋力増強訓練
14		14	その他 手技療法
15		15	評価・点検

評価方法	実技試験を行います。実技試験の中には、口頭試問、授業態度・服装等が含まれます。各疾患の熱可塑性のシーネを作成してもらいます。前期試験・実技とも65点以上を合格とします。
授業の進め方	実技を中心に授業を行います。色々な固定材料を体験します。
注意 (学生に望むこと)	実技をメインとした授業のため、包帯を巻いた練習回数が重要となります。包帯を自宅に持ち帰り、家族や友人の体を借りて反復練習することが大事です。学校でも休み時間を利用して、学生同士で積極的に練習しましょう。
テキスト・参考書	教科書：『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会(南江堂) 『柔道整復学 実技編』 全国柔道整復学校協会(南江堂) 『包帯固定学』 全国柔道整復学校協会(南江堂) 参考書：『テーピングの実技と理論』(文光堂)

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	渡邊 慶子	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	自然科学概論(半期)	曜日・時間	前期) 水曜日 14:50～

【授業概要・目標】	
1、ヒトの生物学的な特徴を理解する。	
2、ヒトの体を生化学と分子から理解する。	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	ヒトとは？① 直立二足歩行する動物、人類の出現と進化
2	ヒトとは？② ホモ・サピエンスの誕生と拡散
3	細胞の構造と生命誕生① 細胞の構造と機能
4	細胞の構造と生命誕生② 細胞の構造と機能、生物の誕生と多様性
5	生命体を構成する物質① 生体をつくる高分子、タンパク質、糖質
6	生命体を構成する物質② 脂質、核酸、ビタミンとミネラル
7	生体とエネルギー① 酵素、ATP
8	生体とエネルギー② 糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝
9	遺伝子の構造と機能① DNAの構造、DNAの複製
10	遺伝子の構造と機能② 遺伝子の転写と制御、遺伝子の翻訳
11	遺伝子の構造と機能③ DNAの変異による病気、遺伝病、体質
12	細胞の分裂・情報伝達・がん化 細胞分裂、細胞間の情報交換、がん化
13	多細胞生物の自己維持機構 生体防御機構(自然免疫、獲得免疫)
14	総復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

評価方法	試験
授業の進め方	教科書、スライドで教科書の内容を補足する。
注意 (学生に望むこと)	丸暗記するのではなく理解すること。わからないことは積極的に質問する。 配布したプリントは紛失しないようファイルする。
テキスト・参考書	やさしい基礎生物学 第2版 羊土社

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	仲井 邦彦	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	衛生学・公衆衛生学	曜日・時間	木曜日 9:10～

【授業概要・目標】
 公衆衛生学は、健康の維持・増進および疾病の予防を目指す学問であり、疾病の発生要因を社会との関連から追求し、その予防対策を立てることを目指している。本講でも、生活習慣病やがんを中心に、疾病の発生要因について基本的な知識を学びつつ、予防について考えてみたい。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	健康の定義
2	エビデンスに基づく医療(EBM)
3	寿命と健康寿命
4	日本の死因
5	ライフスタイルと健康
6	生活習慣病とその起源
7	がんの疫学
8	がんの生物学
9	がんの予防と治療
10	生活習慣病総論
11	糖尿病の疫学と予防
12	血管疾患の疫学と予防
13	食中毒総論
14	食中毒各論
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	感染症総論: 感染症と病原体
2	感染症総論: 免疫
3	感染症各論
4	環境衛生学総論
5	地球環境と環境衛生学
6	物理的環境
7	化学的環境
8	精神保健
9	栄養と健康
10	運動と栄養
11	母子保健・学校保健
12	産業衛生学・職業病
13	保健統計
14	統計学と疫学
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期筆記試験の比重を9割程度とし、講義中に行うミニトーパー(講義に対する理解を確認するミニレポート)を若干考慮する。
授業の進め方	講義形式を中心に構成し、自由記載のミニレポートを必要に応じて実施し、自ら記述することで知識の習得を目指す。
注意 (学生に望むこと)	質問など積極的な参加を期待する。
テキスト・参考書	教科書に加え、配布資料を用いて講義を行う。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	小原 賢	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	柔道 I	曜日・時間	木曜日 10:50～

【授業概要・目標】

礼法や受け身など、柔道における基礎を中心に授業を行います。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション、授業の進め方(礼法と回転運動(受身含む)は毎授業実施)
2	後受身、前受け身
3	後受身、前受け身、前方回転受身
4	後受身、前受け身、前方回転受身
5	前方回転受身、手技一 ①(浮落)指導、練習
6	投の形 手技一 ①(浮落)②(背負投)指導、練習
7	投の形 手技一 ②(背負投)③(肩車)指導、練習
8	投の形 手技一 ③(肩車)腰技一①(浮腰)指導、練習
9	投の形 腰技一①(浮腰)指導、練習
10	受け身、投の形 手技3本、腰技(浮腰)指導、練習
11	受け身、投の形 手技3本、腰技(浮腰)指導、練習
12	前期実技試験内容説明、練習
13	前期実技試験一①
14	前期実技試験(予備日)
15	前期実技試験評価点検、柔道の歴史や変遷

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期習得内容復習 (礼法、受け身、投の形(手技))
2	前期習得内容復習 (礼法、受け身、投の形(手技))
3	投の形 腰技一② (払腰)指導、練習
4	投の形 腰技一 ③(釣込腰)指導、練習
5	投の形 足技一 ①(送足払)指導、練習
6	投の形 足技一 ②(支釣込足)指導、練習
7	投の形 足技一 ③(内股)指導、練習
8	投の形 手技3本指導、練習、投技について
9	投の形 腰技3本指導、練習、投技について
10	投の形 足技3本指導、練習、投技について
11	投の形 手技、腰技、足技指導、練習
12	後期実技試験内容説明、練習
13	後期実技試験一①
14	後期実技試験(予備日)
15	後期実技試験評価点検、柔道の歴史など(国試内容含む)

評価方法	実技試験、授業態度、出席日数にて総合評価する。
授業の進め方	礼法礼節、受け身を中心に柔道の基礎を習得を目指します。
注意 (学生に望むこと)	柔道実技では怪我をしないように毎回真剣に取り組むことを望みます。
テキスト・参考書	「投の形」と投技(乱取り)は講道館のDVDを使用します。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	和泉 博之	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	生理学 I	曜日・時間	金曜日 9:10～

【授業概要・目標】 人体の生理機能についてその意義と機構を理解する。 生理機能の基礎と調節機構を中心に授業する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	生理学とは、
2	細胞内小器官、核、細胞膜
3	ホメオスタシス、内部環境の恒常性、物質の移動、体液
4	血液の役割、血液型、血漿
5	赤血球、白血球、血小板、
6	血液凝固、血液型、線容系
7	体循環、肺循環
8	心臓の構造、興奮(刺激伝導系)
9	心臓の神経支配、血管の分類、心音
10	心電図の波形と働き
11	心周期、 血圧の測定・血圧の決定因子
12	循環調節、リンパ循環
13	局所循環
14	前期の総まとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	内分泌腺、化学組成、分泌調節
2	視床下部一下垂体系
3	副腎皮質、副腎髄質ホルモン
4	甲状腺ホルモン、膵臓のホルモン、 性腺ホルモン
5	呼吸器の構造、換気
6	呼吸調節
7	消化器系のはたらき、消化管運動、 唾液分泌機序
8	消化、吸収、消化管ホルモン
9	代謝、生体構成成分、電子伝達系、 エネルギー代謝
10	熱の産生と放散、体温調節
11	泌尿器の構造、尿の生成
12	細胞外液の調節、レニン・アンギオテ ンシン・アルドステロン系
13	クリアランス、排尿調節
14	後期の総まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験(筆記試験)と各单元ごとの小テストで判定
授業の進め方	板書、過去問題、ビデオを駆使して平明な講義
注意 (学生に望むこと)	予習、復習と理解できないところは質問をすること
テキスト・参考書	

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	小原 賢	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	柔道整復基礎実技 I	曜日・時間	金曜日 10:50～

【授業概要・目標】

柔道整復術(固定法)の基礎を身につける。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション 授業について
2	柔整理論用語練習(読み書き)、 学習方法指導
3	固定法(座学、固定材料紹介)
4	包帯固定学(基本包帯法)
5	包帯固定学(基本包帯法)
6	包帯固定学(基本包帯法)
7	包帯固定学(基本包帯法)
8	包帯固定学(基本包帯法)
9	包帯固定学(テーピング)
10	包帯固定学(テーピング)
11	包帯固定学
12	前期実技試験内容説明
13	前期実技試験
14	前期実技試験(予備日)
15	前期評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期授業内容復習(実技復習試験)
2	柔整理論用語復習(読み書き)、 人体の構造
3	「手技療法」の柔整理論での分類と 基本型
4	手技療法基本型を術者役と患者役で 実践①
5	手技療法基本型を術者役と患者役で 実践②
6	手技療法基本型を術者役と患者役で 実践③
7	柔道整復(整復)
8	柔道整復(整復)
9	包帯固定学(テーピング含む)
10	包帯固定学(テーピング含む)
11	包帯固定学(テーピング含む)
12	後期実技試験内容説明
13	後期実技試験
14	後期実技試験(予備日)
15	後期評価点検

評価方法	実技試験、授業態度、出席日数などで総合評価します。
授業の進め方	前回授業の復習をしながら基礎を中心に各回授業に繋げる。
注意 (学生に望むこと)	柔整基礎(総論)に則り、逸脱しないよう注意する。
テキスト・参考書	柔道整復学理論編・実技編。包帯固定学

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	石垣 寛高	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	柔道整復基礎実技Ⅱ	曜日・時間	金曜日 13:10～

【授業概要・目標】

柔道整復師に必要な基礎的な知識・技術の習得

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	診察法-01
4	診察法-02
5	診察法-03
6	診察法-04
7	診察法-05
8	診察法-06
9	診察法-07
10	診察法-08
11	診察法-09
12	診察法-10
13	実技試験
14	実技試験
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	実技総合-01
2	実技総合-02
3	実技総合-03
4	実技総合-04
5	実技総合-05
6	実技総合-06
7	実技総合-07
8	実技総合-08
9	実技総合-09
10	実技総合-10
11	実技総合-11
12	実技総合-12
13	実技試験
14	実技試験
15	評価・点検

評価方法	実技試験、出席、授業態度、課題提出、筆記試験の総合で判定する。
授業の進め方	実技、内容の確認
注意 (学生に望むこと)	毎回内容の予習と復習をしっかりとすること。
テキスト・参考書	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編 問診診察ハンドブック

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	工藤 忠明	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	生理学Ⅱ	曜日・時間	金曜日 14:50～

【授業概要・目標】

生理学は、人体の正常な機能に対する理解を深めることを目標とする。特に、「生理学Ⅱ」では体液・神経系・筋・運動・感覚・生殖・骨の働きについて学ぶ。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	導入・神経系の成り立ち
2	ニューロンの構造と働き
3	神経線維の興奮
4	神経線維の興奮の伝導
5	神経線維の興奮の伝達
6	末梢神経系-1
7	末梢神経系-2
8	中枢神経系-1
9	中枢神経系-2
10	自律神経系-1
11	自律神経系-2
12	神経伝達物質とその受容体
13	筋肉-1
14	筋肉-2
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	運動(総論)
2	運動(脊髄)
3	運動(脳幹)
4	運動(小脳・大脳基底核)
5	感覚(総論)
6	感覚(体性感覚)
7	感覚(内臓痛覚)
8	感覚(特殊感覚)
9	生殖-1
10	生殖-2
11	体液-1
12	体液-2
13	骨代謝-1
14	骨代謝-2
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

評価方法	期末試験(前期・後期)による。
授業の進め方	教科書・スライド・プリント・レポート課題(講義ごとに毎回出題する)を中心に進める。
注意 (学生に望むこと)	生理学の講義内容は多岐にわたる。教科書の予習、配布プリントの復習、レポート課題の提出を欠かさず行うことが望ましい。
テキスト・参考書	標準の教科書を使用する。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	柔道整復医療科 1年
科目名	臨床実習	曜日・時間	月木・3・4時限

【授業概要・目標】

①患者への接遇ができる。②基本的な施術準備ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業 (I)	1	臨床実習 (15)
2	臨床実習前授業 (II)	2	臨床実習 (16)
3	臨床実習 (1)	3	臨床実習 (17)
4	臨床実習 (2)	4	臨床実習 (18)
5	臨床実習 (3)	5	臨床実習 (19)
6	臨床実習 (4)	6	臨床実習 (20)
7	臨床実習 (5)	7	臨床実習 (21)
8	臨床実習 (6)	8	臨床実習 (22)・振り返り
9	臨床実習 (7)	9	
10	臨床実習 (8)	10	
11	臨床実習 (9)	11	
12	臨床実習 (10)	12	
13	臨床実習 (11)	13	
14	臨床実習 (12)	14	
◆	臨床実習 (13)	◆	
15	臨床実習 (14)	15	

評価の方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（柔道整復医療科）

科目名	学年	授業時間数	教員名	実務経験	実務内容
解剖学Ⅱ	1年次	60	小原 賢	5年以上	接骨院（整骨院）に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸院で鍼灸の臨床を行っている。
柔道整復基礎理論Ⅱ	1年次	60	石垣寛高	10年以上	病院に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸接骨院で接骨の臨床を行っている。
柔道整復基礎理論Ⅲ	1年次	60	小原 賢	5年以上	接骨院（整骨院）に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸院で鍼灸の臨床を行っている。
柔道整復応用理論Ⅳ	2年次	60	石垣寛高	10年以上	病院に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸接骨院で接骨の臨床を行っている。
手技療法Ⅱ	2年次	60	高橋武彦	20年以上	病院・接骨院（整骨院）に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸接骨院で接骨の臨床を行っている。
柔道整復応用実技Ⅱ	3年次	60	石垣寛高	10年以上	病院に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸接骨院で接骨の臨床を行っている。
	合計時間数	360			